



(大阪西北部・大阪東北部)

大阪・中之島三丁目所在遺跡(鳥取藩蔵屋敷跡)

1 所在地 大阪府北区中之島三丁目

2 調査期間 一九九九年(平11) 十一月～二〇〇〇年二月

3 発掘機関 (財)大阪府文化財協会

4 調査担当者 小倉徹也

5 遺跡の種類 蔵屋敷跡

6 遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島に位置する。江戸時代以降、周辺には諸藩の大坂蔵屋敷が建ち並んでいたことが知られている。調査地は鳥取藩の蔵屋敷跡にあたり、西隣には広島藩、東隣には福岡藩が蔵屋敷を置いていた。

一八世紀のものとされる詳細な絵図「大坂御屋敷図」(鳥取県立博物館保管)によれば、屋敷地の北側には船入、西辺と南辺には長

屋のようにつながる借家(町屋)が描かれている。

木簡は、西辺の借家側敷地の井戸SE二C ii 〇一(西二C下〇一)から出土した。現在整理中であるため詳しい年代はわからないが、一七世紀中頃から一八世紀中頃と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) □□□□□村甚□

185×28×7 0.11

木簡の上端は左右を切り落とし、下端を細く削っている。墨書は確認できるが、表面の傷みがひどいため不鮮明である。図面は赤外線カメラによる画像をトレースしたものである。中央に「村」の字があることから地名が書かれていたと思われる。「甚□」は人名の可能性がある。荷札と考えられよう。

(小倉徹也・鳥居信子)

